

< 報道発表資料 >

令和 7 年 1 2 月 1 1 日

京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課

令和 7 年度京都市文化功労者の 被表彰者の決定及び表彰式の開催

京都市では、毎年、永年にわたり京都市の文化の向上に多大な御功労をいただいた方々を「京都市文化功労者」として表彰しています。

この度、令和 7 年度の文化功労者を表彰し、1 2 月 1 8 日（木）に表彰式を行います。

なお、この制度は昭和 4 3 年度に創設し、令和 6 年度までに計 3 2 3 名の方々を表彰しています。

【被表彰者（敬称略・五十音順）】

あかまつ 赤松	たまめ 玉女	（絵画）
いのうえ 井上	かすけ 嘉介（十世）	（能楽）
おおにし 大西	せいうえもん 清右衛門（十六代）	（金工）
しのはら 篠原	もとあき 資明	（学術（哲学・美学）、文学（詩））
しばた 柴田	かずなり 一成	（学術（天文学））
なかむら 中村	がんじろう 鴈治郎（四代目）	（歌舞伎）
ふじい 藤井	じょうじ 譲治	（学術（歴史））
やまもと 山本	つよし 毅	（洋楽（打楽器））

【表彰式概要】

- 日時 令和 7 年 1 2 月 1 8 日（木） 午後 4 時 3 0 分～
- 場所 京都市役所 本庁舎 4 階 正庁の間
（〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488 番地）

● 出席者

・被表彰者及び同伴者

- ・主催者 松井 孝治 京都市長
吉田 良比呂 京都市副市長
平賀 徹也 京都市文化芸術政策監
- ・来賓 下村 あきら 京都市会議長
吉田 孝雄 京都市会副議長
加藤 昌洋 京都市会文教はぐくみ委員会委員長
もりもと 英靖 京都市会文教はぐくみ委員会副委員長
増成 竜治 京都市会文教はぐくみ委員会副委員長
鷲田 清一 京都市文化功労者審査会委員代表

● 次第

開会

来賓紹介

表彰状授与

挨拶 松井 孝治 京都市長

祝辞 下村 あきら 京都市会議長

祝辞・功績紹介 鷲田 清一 京都市文化功労者審査会委員代表

被表彰者挨拶

閉会（閉会后、記念撮影）

<お問合せ先>

京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課

電話：075-222-3119

赤松 玉女

あかまつ たまめ (66歳)

絵画／京都市中京区



【功績】

昭和59年、京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻（油画）修了。イタリアでの創作活動等を経て、国内外で個展等開催のほか、3人の作家ユニットの活動、障害のある人々や家族・支援する人々と共にアートを通じた交流やサポートの実践を行う。また、京都市立芸術大学にて教壇に立ち、美術学部長を経て平成31年から令和7年まで学長を務め、大学移転に尽力するとともに、京都文化芸術都市創生審議会をはじめ京都市の委員を多数務める。

教育活動と並走しながら人物像を中心に絵画制作を続け、複雑に移ろう人間の内面をテーマに、油彩、水彩、フレスコ技法等、画材や技法を組み合わせた独自の絵画表現を研究。令和7年には京都美術文化賞を受賞するなど、国内外で発表を続ける作品は高く評価され、後進にも大きな影響を与えている。平成11年京都市芸術新人賞を受賞。

＜略歴＞

- ・兵庫県出身
- ・京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻（油画）修了（昭和59年）
- ・イタリアに滞在し、創作活動を行う（平成元～4年）
- ・京都市立芸術大学美術学部油画専攻講師（平成5～16年）
- ・イタリアにてフレスコ技法の研修を受ける（平成13～14年）
- ・京都市立芸術大学美術学部准教授（平成16～22年）
- ・京都市立芸術大学美術学部教授（平成22～31年）
- ・京都市立芸術大学美術学部長（平成30～31年）
- ・京都市立芸術大学学長（平成31～令和7年）

＜現在＞

- ・京都市立芸術大学名誉教授
- ・公益財団法人国際高等研究所副所長

＜主な受賞歴等＞

- ・全関西美術展 全関西賞3席（昭和58年）、読売テレビ局賞（昭和59年）、全関西賞1席（昭和61年）
- ・京都市芸術新人賞（平成11年）
- ・尼崎市民芸術賞（令和2年）
- ・亀高文子記念－赤艸社賞（令和3年）
- ・兵庫県文化賞（令和6年）
- ・京都美術文化賞（令和7年）

＜主な活動等＞

- ・上野の森美術館絵画大賞展（上野の森美術館／東京／昭和58年）
- ・安井賞展（西武美術館／東京／昭和61～63年）
- ・前田寛治大賞展（倉吉博物館／鳥取／平成7、13年）
- ・Breeze（ギャラリーa、ギャラリーなかむら／京都／平成21～令和7年）
- ・【個展】赤松玉女 絵画の軌跡 1984-2014（西脇市岡之山美術館／兵庫／平成26年）
- ・【個展】あいまいのものがたり ambiguous stories（ギャラリーヒルゲート／京都／平成29年）
- ・【個展】赤松玉女展 monologue（ギャラリー白／大阪／令和元年）
- ・【個展】まなざしのものがたり A story of Looking（尼崎市総合文化センター／兵庫／令和3年）
- ・【個展】アートをめぐるお茶のひととき（旧三井家下鴨別邸／京都／令和5年）
- ・【個展】赤松玉女退任記念展 Ladies－これでおしまい、そしてこれから（京都市立芸術大学／令和7年）
- ・herstories－女性の視点でたどる美術史（京都市立芸術大学芸術資料館／令和7年）

＜京都市との関わり＞

- ・京都市文化芸術振興条例（仮称）策定協議会委員（平成16～18年）
- ・京都市美術館協議会委員（平成31～令和7年）
- ・京都文化芸術都市創生審議会委員（令和元～7年）
- ・京都市総合計画審議会委員（令和6年～）

＜代表作等＞



《ICONOVogue
The Lonesome
Highway -smoke-》
（平成22年）



《だからだいじょうぶ》
（平成29年）

十世 井上 嘉介

いのうえ かすけ (70歳)
能楽／京都市北区



【功績】

能楽師の九世井上嘉介氏の長男として京都市に生まれる。幼少期より二十五世観世宗家観世左近師、二十六世観世宗家観世清和師及び父に師事し、5歳のときに「春栄」で初舞台を踏み、10歳のときに「吉野天人」で初シテを務める。以降もたゆまぬ研鑽を重ねて芸を磨き続け、「乱」「石橋」「道成寺」「翁」「安宅」「卒都婆小町」「鸚鵡小町」などを披く。令和7年には観世流における最奥曲の三老女の一曲「姨捨」を披き、井上裕久改め十世井上嘉介を襲名。

平成13年に謡曲で情景を表現する「謡講」を約100年ぶりに再興し現在も定期的に公演を行うほか、京都能楽会理事長、京都観世会専務理事及び能楽堂嘉祥閣代表理事などの要職を歴任し、能楽の魅力を国内外に発信するとともに、京都における能楽の継承と発展に大きく貢献した。平成31年京都府文化賞功労賞を受賞。

本名 井上 周久 (いのうえ かねひさ)
シテ方観世流 井上家11代当主

＜略歴＞

- ・京都市出身
- ・故25世観世宗家観世左近師、26世観世宗家観世清和師、及び父・故9世井上嘉介師に師事
- ・仕舞「春栄」にて初舞台（昭和36年）
- ・能「吉野天人」にて初シテ（昭和40年）
- ・同志社大学文学部卒業（昭和54年）
- ・「謡講」を約100年ぶりに再興（平成13年）
- ・十世 井上嘉介を襲名（前名 井上裕久）（令和7年）

＜現在＞

- ・一般社団法人京都能楽会理事長
- ・一般財団法人能楽堂嘉祥閣代表理事
- ・公益社団法人京都観世会専務理事
- ・公益社団法人能楽協会理事
- ・一般社団法人日本能楽会会員

＜主な受賞歴等＞

- ・重要無形文化財保持者（総合認定）（平成10年）
- ・京都府文化賞功労賞（平成31年）

＜主な活動等＞

- ・松花の会（京都観世会館／平成7～令和7年）
- ・謡講（奈良屋杉本家ほか／京都／平成13～令和7年）
- ・新作能「庭上梅」（同志社大学、名古屋能楽堂ほか／京都、愛知ほか／平成17、22、28、令和7年）
- ・能楽普及講座 神男女狂鬼祝（能楽堂嘉祥閣／京都／令和3年）
- ・楽しむ能「楽」プロジェクト！京都公演～井上芳雄と深掘りする能楽～（京都観世会館／令和6年）
- ・井上定期能百周年（京都観世会館ほか／京都ほか／令和7年）

＜京都市との関わり＞

- ・京都新能 出演 ※共催：京都市、一般社団法人京都能楽会
- ・能楽チャリティ公演 出演（ロームシアター京都／平成30、令和4年）※共催：京都市、ロームシアター京都

＜代表作等＞



松花の会「鸚鵡小町」
（京都観世会館／平成26年）

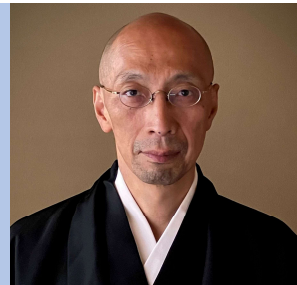


学校法人同志社創立
150周年記念
「新作能 庭上梅」
（栄光館／京都／令和7年）

十六代 大西 清右衛門

おおにし せいうえもん (64歳)

金工／京都市中京区



【功績】

大西浄心氏の長男として京都市に生まれる。父に師事しつつ、大阪芸術大学で西洋的な造形技法も習得し、平成5年に十六代大西清右衛門を襲名。茶道具の正統な型を継承する千家十職の釜師として、茶ノ湯釜の伝統や中世のギルド「釜座」といった洛中の生活文化の継承など、茶道において独自の役割を担う。また、技法研究や古の技術の復興に励み、銀閣寺蔵「夜学釜」などを復元したほか、様々な技法を創作に生かし、国内外の工芸展にも意欲的に出展する。

平成10年には公益財団法人京釜文化振興財団「大西清右衛門美術館」を設立。自館で春と秋に展覧会を開催するほか、各地で茶会や講演会を行い、「京釜」をはじめ様々な釜の魅力を伝えるなど、茶道文化の継承と振興に大きく貢献した。平成15年京都市芸術新人賞、平成18年京都府文化賞奨励賞、平成26年京都府文化賞功労賞を受賞。

本名 大西 英生 (おおにし ひでお)
千家十職釜師・大西家十六代当主

＜略歴＞

- ・京都市出身
- ・大西浄心氏（十五代大西清右衛門）に師事（昭和54年）
- ・大阪芸術大学美術学部彫塑科卒業（昭和61年）
- ・十六代大西清右衛門を襲名（平成5年）
- ・芦屋釜の秘法「挽き中子技法」の再現に成功（平成8年）
- ・工房と併設した大西清右衛門美術館を開設（平成10年）
- ・二代大西浄清作の「夜学釜」の復元に成功（平成18年）
- ・龍安寺蔵 鉄灯籠の扉を復元（平成20年）
- ・ロエベ財団の長期支援を受けて、大西家の次世代の育成、生活文化と美意識を世界へ発信（令和5年～）

＜現在＞

- ・大西清右衛門美術館館長
- ・公益財団法人京釜文化振興財団代表理事

＜主な受賞歴等＞

- ・京都市芸術新人賞（平成15年）
- ・京都府文化賞奨励賞（平成18年）
- ・京都府文化賞功労賞（平成26年）
- ・京都府伝統産業優秀技術者表彰（令和3年）

＜主な活動等＞

【展覧会】

- ・「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 2013」において、釜づくりにおける鉄の溶解場面を自身で撮影した一連の写真作品をCHANEL NEXUS HALLキュレーター監修による個展として大西清右衛門美術館で展示（平成25年）
- ・大西清右衛門美術館 開館二十周年記念展 大西家歴代（大西清右衛門美術館／京都／平成30年）
- ・千家十職展 新しい作品を中心に（表千家北山会館／京都／令和3年）
- ・NENDO SEES KYOTO（元離宮二条城、清水寺／京都／令和4年）
- ・「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 2023」において、写真家のココ・カピタン氏が撮影したポートレートや、大西家の茶の湯釜工芸を映したドキュメンタリー作品を大西清右衛門美術館で展示（令和5年）
- ・ロエベ クラフテッド・ワールド展（ヨドバシJ6ビル／東京／令和7年）
- ・職家展－千家と職家の世界－（表千家北山会館／京都／令和7年）
- ・京都・大西家の祭釜（大西清右衛門美術館／京都／令和7年）
- ・GATEWAY.KYOTO 工芸美術－京都工芸の現在（渉成園／京都／令和7年）

【著書】

- ・『茶の湯の釜』（淡交社／平成16年）
- ・『鐵技』（マリア書房／平成26年）

＜代表作等＞



《かどくち釜》
（平成18年）



《夜学釜》
（平成18年）

篠原 資明

しのはら もとあき (75歳)
学術(哲学・美学)、文学(詩) / 滋賀県大津市



【功績】

昭和55年、京都大学大学院文学研究科美学美術史学専攻博士課程単位取得退学。京都大学教授、美学会会長、国立美術館運営委員会会長などを経て、現在は京都大学名誉教授で、京都市立芸術大学客員教授を務める。

哲学者として「あいだ」で生まれる様々な現象を交通様態から分析する「あいだ哲学」を提唱し、詩人としては「方法詩」という制作過程に重点を置き、言葉の組合せ方や表現の形式を意識的に探求する新たな詩を提案・実践した。さらには、1980年代から現代美術の批評を行い、数多くの美術家を見出すなど、日本の美術史に大きな影響を与えた。

また、京都市文化功労者審査会、京都市芸術新人賞・京都市芸術振興賞選考委員会、京都国際舞台芸術祭実行委員会などの委員を歴任し、京都における学術・文化芸術の推進及び発展に大きく貢献した。

＜略歴＞

- ・香川県出身
- ・京都大学大学院文学研究科美学美術史学専攻博士課程単位取得満期退学（昭和55年）
- ・大阪芸術大学助教授（昭和63～平成元年）
- ・東京藝術大学専任講師（平成元～6年）
- ・京都大学総合人間学部教授（平成10～28年）
- ・国立美術館外部評価委員（平成17～27年）
- ・美学会会長（平成22～25年）
- ・高松市美術館館長（平成28～令和3年）
- ・高松市美術館アートアドバイザー（令和3～5年）
- ・国立美術館運営委員会会長（令和3～7年）

＜現在＞

- ・京都大学名誉教授
- ・京都市立芸術大学客員教授

＜主な受賞歴等＞

なし

＜主な活動等＞

【詩】

- ・『平安にしずく』（思潮社／平成9年）
- ・『空うみのあいだ』（思潮社／平成21年）
- ・『超絶短詩集 吉田山百人一品』（編著／七月堂／平成28年）
- ・『超絶短詩集 秘剣まぶさび』（七月堂／令和5年）

【学術】

- ・『心にひびく短詩の世界』（講談社／平成8年）
- ・『岩波講座 哲学』（編集委員／岩波書店／平成20～21年）
- ・『空海と日本思想』（岩波書店／平成24年）
- ・『まず美にたずねろ 風雅モダンへ』（岩波書店／平成27年）
- ・『あいだ哲学者は語る どんな問いにも交通論』（晃洋書房／平成30年）

＜京都市との関わり＞

- ・京都市文化功労者審査会委員（令和元～7年）
- ・京都市芸術新人賞・京都市芸術振興賞選考委員会委員（令和2年～）
- ・京都国際舞台芸術祭実行委員会委員（平成25～28年）、同顧問（平成29年～）

＜代表作等＞



『あいだ哲学者は語る
どんな問いにも交通論』
(晃洋書房／平成30年)



『超絶短詩集 秘剣まぶさび』
(七月堂／令和5年)

柴田 一成

しばた かずなり (70歳)
学術(天文学) / 大阪府枚方市



【功績】

昭和56年、京都大学大学院理学研究科博士後期課程中退。京都大学大学院理学研究科附属天文台教授や同台長などを経て、現在は京都大学名誉教授であり、同志社大学客員教授や花山宇宙文化財団理事長を務める。

宇宙電磁流体力学分野の天文学者・宇宙物理学者として、宇宙ジェット・フレアの基礎電磁流体機構の解明、太陽型星におけるスーパーフレアの発見、太陽観測衛星「ようこう」と「ひので」のデータを用いた観測的研究、宇宙天気予報研究の重要性を提言するなど、太陽宇宙プラズマ物理学の発展に大きく貢献するとともに、国際的にも高い評価を受けている。

また、太陽研究の傍ら、京都市民をはじめ広く一般の方に対して天文台や天文学を普及・啓発する活動に精力的に取り組む、歴史的価値のある花山天文台の存続・活用にも力を注いでいる。

＜略歴＞

- ・大阪府出身
- ・京都大学大学院理学研究科博士後期課程中退（昭和56年）
- ・愛知教育大学教育学部助手・助教授（昭和56～平成3年）
- ・京都大学理学博士取得（昭和58年）
- ・国立天文台助教授（平成3～11年）
- ・京都大学大学院理学研究科附属天文台教授（平成11～令和2年）
- ・日本学術会議天文学研究連絡委員会委員（平成12～20年）
- ・京都大学大学院理学研究科附属天文台台長（平成16～31年）
- ・日本天文学会会長（平成29～令和元年）
- ・同志社大学特別客員教授（令和3～6年）

＜現在＞

- ・京都大学名誉教授
- ・同志社大学客員教授
- ・一般財団法人花山宇宙文化財団理事長

＜主な受賞歴等＞

- ・日本天文学会林忠四郎賞（平成14年）
- ・ナイスステップな研究者（文部科学省科学技術政策研究所）（平成21年）
- ・講談社科学出版賞（平成22年）
（『太陽の科学 磁場から宇宙の謎に迫る』（NHK出版／平成22年））
- ・文部科学大臣表彰科学技術賞 理解増進部門（平成25年）
- ・チャンドラセカール賞（令和元年）
- ・京都市教育功労者表彰（令和2年）
- ・ジョージ・エラリー・ハール賞（令和2年）
- ・日本地球惑星科学連合フェロー（令和3年）
- ・京都新聞大賞（令和3年）

＜主な活動等＞

【著書】

- ・『活動する宇宙：天体活動現象の物理』（共著／裳華房／平成11年）
- ・『太陽の科学 磁場から宇宙の謎に迫る』（NHK出版／平成22年）
- ・『太陽活動1992-2003 フレア監視望遠鏡が捉えたサイクル23』（共著／京都大学学術出版会／平成23年）
- ・『総説 宇宙天気』（共著／京都大学学術出版会／平成23年）
- ・『太陽 大異変 スーパーフレアが地球を襲う日』（朝日新聞出版／平成25年）
- ・『とんでもなくおもしろい宇宙』（KADOKAWA／平成28年）
- ・『宇宙電磁流体力学の基礎』（共著／日本評論社／令和5年）
- ・『太陽の脅威と人類の未来』（KADOKAWA／令和6年）

【講演】

- ・花山天文台 土日公開でのミニ講演（令和4年～）
- ・太陽黒点の謎（オンライン開催／令和6年）
- ・太陽フレアと宇宙天気予報（X-NIHONBASHI BASE／東京／令和6年）
- ・宇宙落語会 in 万博（万博会場／大阪／令和7年）

＜代表作等＞



『太陽の科学 磁場から宇宙の謎に迫る』
(NHK出版／平成22年)



『太陽の脅威と人類の未来』
(KADOKAWA／令和6年)

年齢は令和7年12月18日現在

四代目 中村 鴈治郎

なかむら がんじろう (66歳)

歌舞伎／東京都渋谷区



【功績】

人間国宝の四代目坂田藤十郎氏の長男として京都市に生まれる。8歳のときに「紅梅曾我」の一萬丸で中村智太郎を名のり初舞台を踏み、慶應義塾大学卒業後に本格的に歌舞伎の世界に入る。平成7年に五代目中村翫雀を、平成27年に四代目中村鴈治郎を襲名。

国内外の歌舞伎公演に積極的に出演し、立役、女形、敵役、三枚目、老け役まで幅広い役柄を演じる芸域の広さや人情豊かな表現力、愛嬌あふれる演技で見る者を魅了し続けている。また、公開から大きな反響を呼び社会現象にもなった映画「国宝」では、歌舞伎指導を全面的に担うとともに俳優としても出演し、歌舞伎の魅力発信・振興に大きく寄与した。

平成28年京都府文化賞功労賞を受賞、令和元年紫綬褒章を受章。

本名 林 智太郎 (はやし とまたろう)
成駒家当主

＜略歴＞

- ・京都市出身
- ・歌舞伎座「紅梅曾我」にて初舞台（昭和42年）
- ・慶應義塾大学法学部卒業
- ・名題適任証取得（平成2年）
- ・五代目中村翫雀襲名（平成7年）
- ・四代目中村鴈治郎襲名（平成27年）

＜現在＞

- ・一般社団法人伝統歌舞伎保存会会員
- ・公益社団法人日本俳優協会理事

＜主な受賞歴等＞

- ・国立劇場特別賞（昭和44年）、優秀賞（平成18、25年）
- ・重要無形文化財保持者（総合認定）（昭和58年）
- ・十三夜会賞奨励賞（昭和63、平成10、11年）
- ・関西・歌舞伎を愛する会演技賞（平成11年）、推賞（平成15年）
- ・日本芸術院賞（平成18年）
- ・松尾芸能賞優秀賞（平成23年）
- ・京都府文化賞功労賞（平成28年）
- ・ロシア連邦文化省文化功労賞（平成30年）
- ・紫綬褒章（令和元年）

＜主な活動等＞

- ・全国各地で多数の公演に出演するほか、アジア、ヨーロッパ、アメリカなどの海外公演にも積極的に出演

【公演】

- ・五代目中村翫雀・三代目中村扇雀襲名披露 松竹百年記念初春大歌舞伎（中座／大阪／平成7年）
- ・四代目中村鴈治郎襲名披露 壽初春大歌舞伎（大阪松竹座／平成27年）
- ・壽初春大歌舞伎（大阪松竹座／平成31年）
- ・錦秋喜劇特別公演（南座／京都／令和5年）
- ・歌舞伎鑑賞教室「恋飛脚大和往来－封印切－」（サンパール荒川／東京／令和6年）
- ・吉例顔見世興行（南座／京都／令和6年）
- ・逸青会 15周年記念 京都特別公演（金剛能楽堂／京都／令和7年）
- ・上方伝統芸能公演～能楽・人形浄瑠璃文楽・歌舞伎～（万博会場／大阪／令和7年）
- ・大阪・関西万博開催記念 薫風歌舞伎特別公演（大阪松竹座／令和7年）
- ・仮名手本忠臣蔵（新国立劇場／東京／令和7年）

【映画】

- ・映画「国宝」出演・歌舞伎指導（令和7年）

＜代表作等＞



©松竹（株）

壽初春大歌舞伎
「心中天網島 河庄」
紙屋治兵衛役
（大阪松竹座／平成31年）



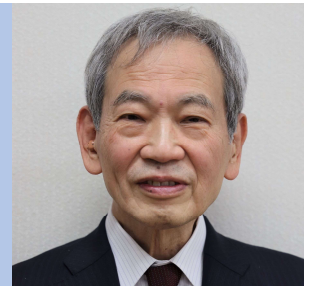
映画「国宝」吾妻千五郎役
（令和7年）

全国東宝系にて公開中
©吉田修一／朝日新聞出版
©2025映画「国宝」製作委員会

年齢は令和7年12月18日現在

藤井 譲治

ふじい じょうじ (78歳)
学術（歴史）／滋賀県大津市



【功績】

昭和50年、京都大学大学院文学研究科国史学専攻博士課程単位取得退学。平成3年に博士（文学）を取得。京都大学で教壇に立ち、文学部助教授、大学院文学研究科教授、附属図書館長などを経て、現在は京都大学名誉教授で、石川県立歴史博物館館長を務める。

日本近世史を専門とする歴史学者として、とりわけ江戸幕府の政治制度、天下人の権力構造及び天皇制などに関して史料分析に基づく実証に力を注ぎ、近世史研究を先導した。また、『幕藩領主の権力構造』、『近世初期政治史研究』などの著作や学術論文を通じて研究成果を広く発信するとともに、長期にわたって元離宮二条城、北野天満宮、妙法院等の調査に携わり、京都に受け継がれてきた重要な文化を伝えるなど、日本近世史の第一人者として顕著な功績を挙げた。

＜略歴＞

- ・福井県出身
- ・京都大学大学院文学研究科国史学専攻博士課程単位取得退学（昭和50年）
- ・京都大学文学部助手（昭和50～52年）
- ・神戸大学文学部助教授（昭和52～58年）
- ・京都大学人文科学研究所助教授（昭和58～平成6年）
- ・京都大学文学部助教授（平成6～8年）
- ・京都大学大学院文学研究科教授（平成8～24年）
- ・京都大学大学院文学研究科長・文学部長（平成16～18年）
- ・日本学術会議会員（平成17～24年）
- ・京都大学附属図書館長（平成20～23年）

＜現在＞

- ・京都大学名誉教授
- ・石川県立歴史博物館館長

＜主な受賞歴等＞

- ・徳川賞（平成15年）
（『幕藩領主の権力構造』
（岩波書店／平成14年））

＜主な活動等＞

【著書】

- ・『江戸幕府老中制形成過程の研究』（校倉書房／平成2年）
- ・『徳川家光』（吉川弘文館／平成9年）
- ・『江戸時代の官僚制』（青木書店／平成11年）
- ・『幕藩領主の権力構造』（岩波書店／平成14年）
- ・『徳川将軍家領知宛行制の研究』（思文閣出版／平成20年）
- ・『天皇の歴史5 天皇と天下人』（講談社／平成23年）
- ・『戦国乱世から太平の世へ』（岩波書店／平成27年）
- ・『徳川家康』（吉川弘文館／令和2年）
- ・『近世初期政治史研究』（岩波書店／令和4年）

【講演】

- ・寛永文化講座「寛永の二条城行幸」（京・和新庵～文化と産業の交流拠点～／京都／令和6年）
- ・後水尾天皇の二条城行幸と武家（石川県立歴史博物館／令和7年）

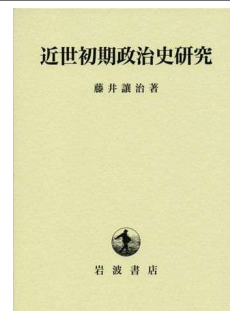
＜京都市との関わり＞

- ・京都市元離宮二条城保存整備委員会記念物部会委員（平成26年～）
- ・二条城歴史講座「江戸時代の二条城」講師（令和元年）

＜代表作等＞



『幕藩領主の権力構造』
（岩波書店／平成14年）



『近世初期政治史研究』
（岩波書店／令和4年）

山本 毅

やまもと つよし (68歳)
洋楽 (打楽器) / 京都市西京区



【功績】

昭和54年、京都市立芸術大学音楽学部卒業。同大学とドイツのデュッセルドルフ音楽大学で打楽器を学ぶ。札幌交響楽団にて打楽器奏者として活躍後、長きにわたり京都市立芸術大学で教壇に立ち、音楽学部教授や音楽学部長、副学長を務め、後進の育成に尽力した。現在は同大学の名誉教授である。

マリンバアンサンブル「アンサンブル・フィリア」、ユーオーディア管弦楽団などのメンバーとして演奏活動に力を注ぐとともに、京都シャロームチャーチでは牧師としてパーカッションを融合した教会音楽の普及に取り組むなど、多岐にわたって精力的に展開してきた活動は各方面から高く評価されている。また、京都文化芸術都市創生審議会など京都市の文化芸術に係る委員を務め、京都の文化芸術の推進にも大きく貢献した。

＜略歴＞

- ・広島県生まれ、京都市に育つ
- ・京都市立芸術大学音楽学部卒業（昭和54年）
- ・ドイツに留学し、デュッセルドルフ音楽大学で打楽器を学ぶ（昭和56～58年）
- ・札幌交響楽団打楽器奏者（昭和58～平成3年）
- ・京都市立芸術大学音楽学部専任講師（平成3～9年）
- ・京都市立芸術大学音楽学部助教授（平成9～16年）
- ・京都市立芸術大学音楽学部教授（平成16～令和4年）
- ・京都市立芸術大学音楽学部長（平成22～26年）
- ・京都市立芸術大学大学院音楽研究科長（平成26～30年）
- ・京都市立芸術大学副学長（平成30～31年）

＜現在＞

- ・京都市立芸術大学名誉教授
- ・神戸女学院大学大学院音楽研究科非常勤講師
- ・京都シャロームチャーチ主任牧師

＜主な受賞歴等＞

- ・青山音楽賞 バロックザール賞（平成12年）

＜主な活動等＞

- ・マリンバアンサンブル「アンサンブル・フィリア」、ユーオーディア管弦楽団、いずみシンフォニエッタ大阪、京都シャロームチャーチ室内アンサンブル等で演奏活動を行う

【コンサート】

- ・例年、京都で「マリンバ アンサンブル コンサート J.S.Bach」（青山音楽記念館 バロックザール）や「クリスマスワーシップコンサート」（京都府立府民ホールアルティ）に出演
- ・プロフェッサーコンサート「ローズウッドいろいろ～鍵盤打楽器の調べ～」（京都府立府民ホールアルティ／平成29年）
- ・秋の夜に贈る「マリンバと宮沢賢治の世界」（ハーモニーホールふくい／令和3年）
- ・マリンバチャリティーコンサート（京都市北文化会館／令和4年）
- ・山本毅 退任記念コンサート「打楽器は楽しい！オモロイ！ホンマやで。」（京都府立府民ホールアルティ／令和4年）
- ・スプリングコンサート（京都市呉竹文化センター／令和5年）

＜京都市との関わり＞

- ・公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団理事（平成24～26年）
- ・京都文化芸術都市創生審議会委員（平成30～令和6年）
- ・京都市交響楽団ビジョン（仮称）検討会議委員（令和元～2年）

＜代表作等＞



秋の夜に贈る
「マリンバと宮沢賢治の世界」
（ハーモニーホールふくい
／令和3年）



山本毅 退任記念コンサート
「打楽器は楽しい！オモロイ！
ホンマやで。」（京都府立府民
ホールアルティ／令和4年）

令和7年度 京都市文化功労者審査会委員

※50音順、敬称略

氏 名	職 業(役 職)
青木 淳	京都市京セラ美術館館長
天野 文雄	大阪大学名誉教授、能楽研究
小山田 徹	京都市立芸術大学学長
福本 潮子	藍美術家
三井 ツヤ子	声楽家、京都市立芸術大学名誉教授、 一般社団法人日本シューベルト協会理事長
森田 りえ子	日本画家、京都市立芸術大学客員教授
山極 壽一	総合地球環境学研究所所長、公益財団法人京都市芸術文化協会理事長
鷺田 清一	京都市立芸術大学名誉教授、京都コンサートホール館長
吉田 良比呂	京都市副市長

京都市文化功労者 受章者一覧（過去3年分）

表彰年度	氏名	分野
令和 6年度	青木 敏郎	洋画
	伊藤 邦武	学術（哲学）
	江里 康慧	仏教彫刻
	片山 九郎右衛門（十世）	能楽
	近藤 高弘	陶芸
	松井 智恵	現代美術
	水口 一夫	歌舞伎
	冷泉 貴実子	和歌
令和 5年度	今村 源	彫刻
	大野 克夫	音楽（ロック・作曲）
	児玉 靖枝	洋画
	佐藤 洋一郎	学術（食文化）
	西川 祐子	学術（文学研究・ジェンダー論）
	西久松 吉雄	日本画
	藤山 直美	演劇（俳優）
	八木 明	陶芸
	山極 壽一	学術（人類学・霊長類学）
令和 4年度	小倉 淳史	染織
	加藤 登紀子	音楽（歌謡曲）
	河村 和重	能楽
	清水 六兵衛（八代）	陶芸
	栗木 京子	文学（短歌）
	建畠 哲	学術（美術）、文学（詩）
	中原 浩大	現代美術
	西野 陽一	日本画
	山部 泰司	洋画